

進捗状況の概要 【1ページ以内】本構想の目的とする人材の養成

都市環境工学を専門として保健医学の基礎的な知識を身に付けた人材と、保健医学を専門として都市環境工学的な知識を身につけた、医工連携人材を養成することを目的とした。英語による高いコミュニケーション能力をベースに、専門能力を持った人材を養成するための講義と、フィールド演習による実践を含めたカリキュラムを用意し、過去2年度において42名の学生を派遣し、21名の学生を受入れた。

カリキュラムの質の保証の取組

本構想のカリキュラムは、本構想を統括するプロジェクト委員会の下に設置したカリキュラム委員会が精査した上で作成した。また同じくプロジェクト委員会の下に、カリキュラム委員会とは独立に設置した単位認定委員会によって、そのカリキュラムを精査し、さらに外部有識者で構成されるアドバイザリー会議によるレビューを受けた。これらの取組みによって本構想のカリキュラムの質の保証を行った。また、海外相手大学の担当教員とは遠隔会議システムなどによって定期的に連絡を取り、さらに年度に1回開催するシンポジウムでは一堂に会して、質の保証を伴った交流プログラム実施のための議論を行っている。

学際英語講義の実施による医工連携カリキュラムの充実

医工連携の具体的なカリキュラムとして平成25年度から学際講義を実施した。講義内容について理解を深めるための実践的な取り組みとして、授業の形態を工夫した。具体的には、「水」「大気汚染と廃棄物処理」「居住環境」の3つのテーマを設定し、各々に2週間4コマの講義時間を割り当てた。その中で、例えば「水」に関しては、1週目は、「水」に関して工学系の教員の講義と医学系の教員の講義を1コマずつ行い、2週目は、「水」について課題を与え、さらにそれを発表させる形式の授業を行った。このようにして、医工連携の取り組みをより実践的なものにした。

交流プログラム実施のための環境整備

本構想の実施にあたり、海外経験を有する日本人特任教員2名と、国際公募によって募集した外国籍教員1名の計3名を採用し、プログラム実施のための環境を整備した。さらに、外国人学生を受入れにあたって単位取得可能な身分「特別聴講学生」の付与、TAによるサポートなど、交流のための環境を整えた。日本人学生への派遣にあたっては、日本人教員が一定期間同行し、同行しない期間は遠隔会議システムによる面談を定期的に行うなど、学生への支援体制を充実させた。

長短期の多様な交流プログラムによる参加者の増大

本構想では、①3～4ヶ月の1学期間留学し単位互換による単位取得を行うプログラム、②2週間程度の単位を付与する短期演習により単位取得を行うプログラム、③シンポジウムの中に設置した学生セッションにおける交流、の多様なプログラムを実施した。期間の異なるプログラムの実施により、学生を柔軟に受け入れることができ、交流学生数を当初計画より大幅に上回ったプログラムを実施することができた。また、2週間程度の短期演習においては、医学系の内容が主となる演習へ、工学系の学生が参加することを推奨するなど、交流プログラムの中でも医工連携を推進するための取り組みを行った。

シンポジウムやHPなどによる成果の普及

各年度に1回ずつシンポジウムを開催し、本構想の成果について幅広く各方面に周知した。平成24年度の第1回は約70名、第2回(平成25年度)は167名、第3回(平成26年度)は102名と多くの参加者に対して活動を周知した。また、本プロジェクト専用のHPを設置し、交流プログラムの状況などを配信した。

【本構想における中間評価までの交流学生数の実績】

平成24年度				平成25年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
3名	10名	0名	16名	9名	32名	5名	5名